

公益社団法人船橋法人会 会長賞
教育と税金

船橋市立海神中学校

第三学年

川 向

遼 翔

僕は毎日、学校に行つて勉強をしたり、友達と話をしたりする。テストのための勉強や部活動は大変だけれど、とても楽しい学校生活を送ることができている。僕は今まで、このような生活を送っているのは、自分だけではない、他の人にとつても当たり前のことだと思つていました。しかし、そうではなくSDGsについての授業で世界には学校に行きたくても行けない人がたくさんいることを知りました。

そこで、世界の教育事情について調べてみると、ユニセフの就学率についての報告書を見つけた。報告書によると、世界の5歳から17歳の子どものほぼ5人に1人にあたる3億300万人近くが学校に通つておらず、その3分の1以上とする1億400万人は、紛争や自然災害の影響、貧困などの理由が多い

そうです。特に貧困は教育を受ける何よりの妨げとなつてしまいます。なぜなら、貧困な家庭にとつて、子どもを学校に行かせることで発生する金銭的負担は決して小さいものではありません。また、子どもを学校に行かせるよりも家の手伝いや幼い兄弟の面倒を見てもらうことの方が重要であり、なかには児童労働をさせられているケースも少なくありません。こうして、貧困によつて子どもの教育を受ける権利が失われつつあることにとつても驚きました。

いま自分たちが毎日学校に行くことができるのは当たり前のことではないと気づかされた。また、「税金」のおかけであることにも。今まで「税金が高くなる」というニュースを見て親が、

「また多く物にお金がかかるのか。」
と言つていたので、税金は自分の中で悪いイ

メージがありました。けれど、それは違つて僕たちの生活を支えてくれる「なくてはならない存在」なんだと学びました。ニュースで報道をする時には、「税金が高くなつて生活が苦しくなる」という悪い面だけを強調するのではなく、「世の中を良くしていくものである」という使い道を強調した形にすれば良いのではと思う。国は、「使い道」は国民が納得するようなものにしていく非常に重い責任を感じた。

最後に、自分は今はまだ将来の夢が決まつていないけど、いつか自分が誰かのために役に立てるよう、今できる勉強・努力をしていきたい。世界には色々な環境で過ごしている人がいて、今こうして当たり前のように勉強できていることもまた税金によつて支えられていることを理解し、自分自身の将来に活かしたいです。